# 昇　竜　洞

【所　在　地】大島郡知名町吉野平川
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】昭和 42 年 3 月 31 日

石柱になりかけた鍾乳石と石筍

壁面に沿うフローストン

石柱になりかけた鍾乳石と石筍　　壁面に沿うフローストン

隆起サンゴ礁からできた石灰岩が，地下水の作用で溶食してできた大規模な鍾乳洞である。上洞，主洞，中洞，下洞の四つの洞穴からなり，これらがほぼ一直線に連なっている。全長約 1,500m であるが，支洞も合わせると 1,700m を超える。

洞穴内には水が流れており，地下の水脈とつながっている。鍾乳石，石筍，フローストンなどさまざまな形態があって見事な景観を示し，洞穴真珠が形成されたり多様な洞穴生物が存在するなど変化に富んでおり，山口県の秋芳洞とともに日本有数の鍾乳洞となっている。

〈参考〉

隆起サンゴ礁の島

過去のサンゴ礁（石灰質の殻をもつサンゴの群体）が，地殻変動や海水準変動で隆起したもので，奄美大島およびその属島を除く他の奄美の島々でよく発達している。もとになるサンゴ礁は数十万年前の比較的温暖な時代に，琉球サンゴ海と呼ばれる海域に形成された。

沖永良部島の大部分は隆起サンゴ礁（石灰岩）で覆われ，島内いたる所でドリーネや鐘乳洞などカルスト台地に特有の地形が見られる。石灰岩は二酸化炭素を含む水によく溶け，溶食作用を受ける。溶食作用は温度が高いほど促進され，そのため沖永良部島に大規模なカルスト地形が発達した。